港北区災害ボランティア連絡会News

事務局　〒222-0032　横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会
TEL 045-547-2324　FAX 045-531-9561
FB 港北区災害ボランティア連絡会

126号
2024年3月

＊入会は随時受け付けています。
＊あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください 。

TKB４８の第一歩　キッチンカー軍団を

TKB48とはＴトイレ、Ｋキッチン、Ｂベッドを48時間以内に被災地に送る活動です。それを実現する一つの試みとして震災対策技術展に災害対応キッチンカーが展示されていました。コンセプトは平常時にはフードロスをなくす働きかけをしながらイベントでこのキッチンカーを知ってもらい、発災時には現地で炊き出し活動に使おうと言うものだそうです。フードロスをなくす事業も、災害対応キッチンカーも今の日本に必要なものです。発案者の中村さんはこの企画書を47都道府県に送ったそうですが、なんと担当部署からの反応はゼロだったそうです。

災害救助法が適用されれば1230円/1人/1日の食費が国から支給されますが、現実にはおにぎりと菓子パンなどが続き、次いでカロリー確保のため揚げ物中心のお弁当になるケースがよく見られます。しかし冬季に油っこく冷たいお弁当は敬遠されがちです。カップ麺も塩分過多の懸念がつきまといます。能登半島地震でもボランティアによる炊き出しに頼っている地域が数多くあります。イタリアのようにワインもつけろとまでは言いませんが、温かい食事が取れる体制は必須です。

全国には4000台以上のキッチンカーが稼働しているようですが、これらがチームを組んで被災地に行けば食事上は大きく改善するはずです。そしてこれを無償のボランティアに頼るのではなく、災害救助法の食費を使って支える仕組みを行政が考えると被災者の食事情はずんとよくなるでしょう。（秦野市は市内のキッチンカー団体と災害時の協力協定を結びました）飲食店も保管していた食材をすぐに炊き出し材料に使う工夫をしても良いでしょう。神戸では被災直後にもかかわらず、というか被災直後だからこそ豪華な食事を楽しんだと言うケースがありました。

ここのブースは若いボランティアが大勢活躍していたのが特徴的でした。彼女らがこの活動を広める力になると嬉しいですね。

（宇田川）

日本ボーイスカウト石川県連盟が珠洲市にボランティア拠点を設置しました

日本ボーイスカウト石川県連盟と日本連盟が協力して、2月11日に珠洲市に「復興支援現地本部」を設置し、3月4日より、ローバースカウトおよび指導者を対象としたボランティアの募集を開始しました。

テントの設営場所や水・食料などは石川県連盟が可能な限り準備してますが、参加はあくまで「自己判断」であり「自己完結型」として必要なものは持参、現地までの交通手段も自ら確保することが原則です。また、現地の支援体制が限られることから、1日15名の受け入れを上限としています。3月19日時点で、195名が参加を表明しています。

珠洲市は、ボーイスカウトにとっては「特別な場所」でもあります。今回、石川県連盟が復興支援現地本部を設置した「リフレッシュ村・鉢ヶ崎」は2006年と2018年に２度も日本スカウトジャンボリーを開催させていただいた場所です。日本スカウトジャンボリーでは、2万人以上のスカウト・指導者が全国から集まり、10日間にわたってスカウト活動を展開します。また2003年には障害をもつスカウトの全国大会、日本アグーナリーも開催させていただきました。

今回の募集は3月4日から31日までの限定的なものではありますが、継続的にこの本部を拠点として、珠洲市の復興支援をボーイスカウトとして積極的に取り組んでいくことになります。

（中島）

「日本ボーイスカウト石川県連盟復興支援現地本部」等の活動について

・本年２月１１日、ボーイスカウト石川県連盟復興支援現地本部が珠洲市鉢ヶ崎公園内に設置されました。

・２月末、日本連盟ホームページに支援ボランティア募集要項等が掲載されました。

・石川県連盟復興支援現地本部（大型テント）を拠点に社会福祉協議会、ボランティアセンター等と打合せを行い、ボーイスカウト指導者とローバースカウト（大学生等）が被災者支援の活動を実施しています。

・被災者に寄り添いながら、ブロック塀・家財道具の片付けや瓦礫撤去、家財具の廃棄、集積場までの運搬作業等を行っています。

2024年3月13日

能登半島地震対応タスクチーム（伊藤郁夫）

＊写真提供も伊藤郁夫さんです

確認事項

- ボランティアは自己判断において参加すること。
- ボランティア活動に耐えうる健康であること。
- ボランティアは、現地支援本部が珠洲市社会福祉協議会、ボランティアセンターと調整した支援業務に従事する。また、支援本部の運営のための業務を行うこともある。
- 現地のボランティアセンターなどの指揮の下で行動すること。
- ボランティアの生活エリアが限定されていることから、上記のボランティア活動以外で独自の活動（例：独自での炊き出し等）を希望しての参加は受け入れられない。現地支援本部の宿泊のみの利用はお断りします。
- 災害支援ボランティアは、基本的には「自己完結型」とし、装備や移動手段などは自己で手配、準備できること。一部、現地状況から現地本郡の指示により持ち物や移動方法についての指示に従えること。

ボーイスカウト日本連盟のホームページから転載しました。今回のボランティア募集の詳細は、下記二次元コードからご確認いただけます。

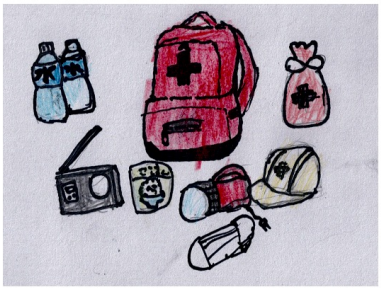
第３回防災・減災イラストコンテスト

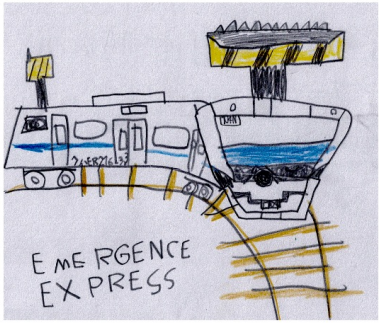
今回も「防災・減災イラストコンテスト」には多数の応募をいただきました。小学生の子供たちの豊かな発想に、毎回のことながら驚かされてしまいます。今回も素敵な作品が多く、当初予定の３作品に絞ることができず、４作品を入賞作として記念品を贈呈させていただきました。また、応募いただいた小学生の方全員に、応募作品全てを掲載したクリアファイルを進呈させていただきます。

応募いただいた小学生のみなさん、また、ご指導いただいた先生や支援員の皆さん、大変ありがとうございました。なお、応募作品の著作権は、すべて港北区災害ボランティア連絡会に帰属させていただきますので、ご承知ください。（応募作品は、港北区災害ボランティア連絡会HP https://kohoku-saibora.jimdofree.com/防災-減災イラストコンテスト/　でもご覧いただけます。）

（中島）

＜入選作品＞





＜応募全作品＞

【防災コラム】「命を守る箱」

能登半島地震の大きな特徴は家屋の倒壊による死者の割合が非常に多かったことです。大きな地震が発生するたびに耐震基準が強化されましたが、高齢化が進んだ地域では耐震補強はなかなか進まないのが実態です。であるならば耐震ベッドや耐震シェルター等、家の一部に丈夫な箱を作りいざと言うときには命だけは守ると言う仕組みを考えても良いのではないでしょうか。横浜市は耐震ベッドや耐震テーブルに十万円、耐震シェルターに三十万円の助成をつけていますが、2023年度の利用はわずか8件だったそうです。今年度からはそれぞれ十万円ずつ増額するそうですから積極的に使いたいものです。

（宇田川）

こんなものもある
写真提供宇田川さん

＜巷での話題＞
「30年以内に70～80%で南海トラフ地震が発生」はウソだった

南海トラフ地震の発生確率はウソだった、との話が巷で話題になっています。確かに、私が昨年受講した「防災減災カレッジ」でも同じ話を聞きました。どういうことかといえば

・地震の発生確率は、過去に発生した地震の発生周期の平均から算出される「単純平均モデル」から算出されている

・しかし、南海トラフ地震だけは大地震のあとでは次の地震までの間隔が長くなり、小地震の後では短くなるという「時間予測モデル」を使って確率が算出されている

・南海トラフ地震の発生確率は「時間予測モデル」では「70~80%」、「単純平均モデル」では「20～30％」と言われている

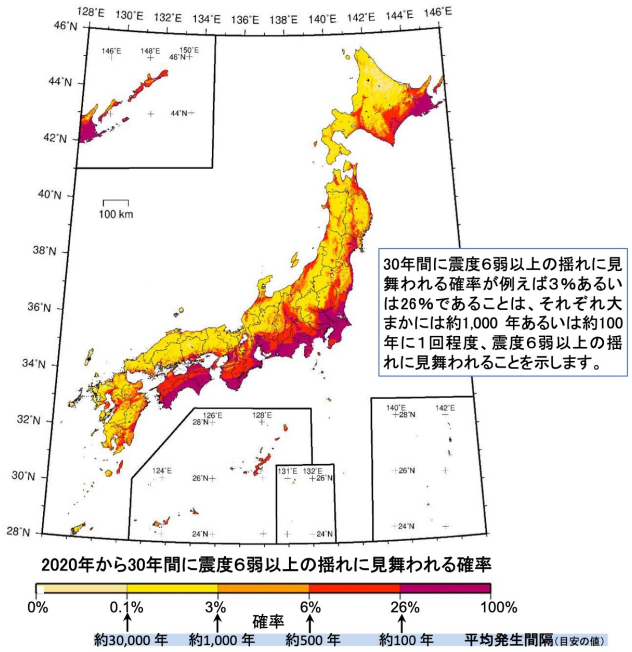
ということです。行政が、南海トラフ地震対策に多額の予算を投入したいが故に、発生確率の「ねじまげて」発表しているのではないか、という議論です。

一方で能登半島地震では被災者から「地震はこの場所ではおきないと思っていた」という声が出ていました。その根拠が、下記に転載した「全国地震予測地図」です。「時間予測モデル」で発生確率が高くだされた地域は「赤く」なりその他の多くの地域は「黄色」になっています。確かに、南海トラフ関係のエリア以外は「安全」なような印象を与えてしまいます。

ニュースの121号で地震保険のことを書かせていただいたのですが、ご記憶にありますでしょうか。地震保険では発生確率の高い地域が３等地となり、２等地・1等地となるほど、発生確率が低いとされ保険料も安くなっているが、阪神・淡路大震災以降、大地震はすべて２等地・1等地で発生しているという話です。ちなみに石川県は1等地です。「単純平均モデル」にしろ「時間予測モデル」にしろ、科学というより経験則に近いように思います。まだ現在の科学では、地震の予知はできないということでしょう。発生時の被害の大きさを考えれば、南海トラフ地震に多くの予算を投入することは、一面、やむを得ない気もします。ある意味「防災トリアージ」でしょうか。

地震予測は「確率」です。「０％」でない限り、今、大地震が発生しても「間違って」はいないのです。私たちは「いつ地震がくるか」ではなく「さあ、今すぐ地震こいよ！」という意気込みで、防災・減災に努める必要があるのでしょう。

（中島）



気象庁HPから転載しました
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/20_yosokuchizu/yosokuchizu2020_mm.pdf

【編集後記】

✓ 2024年4月より横浜中央YMCA（関内）へ異動となりました。コロナ禍とともに過ごした4年間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。後任は4月から横浜北YMCAの館長を務める森山真治さんになります。引き続きよろしくお願いいたします。（鴨下）

✓ 出張で金沢に行きました。能登半島地震の震源から100km以上ありますが、金沢城の石垣が何カ所も崩れて立ち入り禁止になっていました。能登半島産のものを食べたり飲んだり買ったりしました。（室伏）

✓ 3/10の映画会「星にかたりて」(2011.3.11東日本大震災)障害のある人と支援者が励ましあいながら、日常を取り戻そうとする姿にとても感動しました。まだまだ立ちはだかる障壁は多くありそうです。(付岡)

✓ 「何ができて何ができないか」本当に、考えることが多い毎日です。（中島）